

兵庫県立農業高等学校(定時制) 令和4年度学校評価報告書

1 学校教育目標

校訓「ゆたかな情操、たくまめ研鑽」の精神を基調に21世紀の日本の担い手としての自覚と、豊かな創造性及び深い人間愛の精神を持ち、自らが主体的に判断し、行動できること豊かな人材育成をめざす。

2 重点目標

- (1) 基本的生活習慣の確立を図り、社会的自立に必要な自主性・社会性を育てる。
- (2) お互いを思いやり、尊重し、命や人権を大切にできる豊かな情操や徳性を養う。
- (3) 個を生かし個をのばす教育を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・多様な学校関係者(全校生徒・卒業予定生徒・保護者・教員)からの学校への評価を総合的に第三者が判断する方法は妥当であり、特に卒業予定生徒からの評価は意義が大きいと思われる。
・過去の取り組みの評価をもとに見直し・改善がされているうえに、学校関係者にもわかるように示されており妥当である。

5 総合的な学校関係者評価

・多様な生徒が入学してくる中で、試行錯誤しながら対応を模索していくことは大変だと思う。即効性のある答えはないと思うが、外部と連携しながら地道な工夫を重ねてもらいたい。
・卒業後の進路決定についても難しくなっていることがあると思うが、就職先も選択制に入れることができるのではないかと。
・卒業生アンケートで、県農定時制「輝き」が見つけられなかったとする回答が多いが、「輝き」とは大きなことではなく、学校生活の中でできるようになった些細なことを認め、自己肯定感をもつことだということ、生徒に知らしめてほしい。例えば神戸マラソンボランティアに熱心に取り組む姿などは立派な「輝き」であると思う。
・コロナ対応が緩和されていく方向であり、近隣の施設との連携を活発にすることを互いに考えていきたい。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C やや改善 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
1 開かれた学校づくり	(1) 広報活動(情報発信)の積極的展開 (2) 家庭や地域との連携強化	A	・学校ホームページを刷新し、項目を整理することで見やすくなった。刷新後も積極的に掲載するよう取り組んでおり、タイムリーに更新できている。 ・学校ホームページを刷新したことで、操作方法が職員全体で理解できておらず、一部の職員で更新する状況になっている点は改善していきたい。 ・奉仕活動の授業で自治会との夜回りを継続して行うことができた。さらに連携できる内容を模索していきたい。 ・保護者には月報を送付するほか、こまめに電話連絡をしており、行事に参加する保護者が増えている。 ・アフターコロナを見据え、保護者・地域との協働活動の再開、活発化を図る。
2 生徒指導	(1) 規律ある学校生活(交通安全指導を含む)の確立 (2) 生徒の内面理解を図る指導の工夫 (3) いじめの未然防止	B	・授業や全校集会において、規律を守ろうとする生徒が増えている。 ・個人面談が充実し、職員全員が生徒の特性を見て指導している。 ・「警告書」等を活用した指導が定着し、校内では生徒が基本的な生活習慣の確立ができつつあり、落ち着いて授業が行われている。 ・些細なトラブルでもすぐに学年団で対応し、職員間の意見交換をすることで、いじめにつながる前に対応できている。 ・遅刻が多く、挨拶がうまくできない生徒もいる点は改善し、消費活動、男女関係については生徒に考えさせた。 ・いじめの未然防止へ向け、さらに工夫を重ね、全職員で対応できるように努める。
3 教育課程	(1) 基礎学力の定着指導 (2) 創意工夫を生かした総合的な学習(探究)の時間の効果的な実践 (3) 個に応じた学習指導、授業研究の推進 (4) 特別活動の活性化	A	・学び直しによる基礎基本の定着を図る指導について、生徒の満足度が高い。一方で生徒の学力に差があることを考慮し、習熟別指導の導入の必要性を感じることがある。 ・評価方法については試行錯誤しながらではあるが観点別評価に取り組んでいる。 ・2年回の授業公開、グループによる授業研究で授業力が磨かれている。 ・特別活動において、指示は守れるようになっているが、主体的な取り組みというには課題が残る。自主性や積極性をどのように育むか、難しい課題である。
4 進路指導	(1) 3(4)年間を見据えた組織的な進路支援体制の充実	A	・「進路の手引き」が作成されたことで、3(4)年間のプログラムが明確になり、組織的に取り組もうとしている。 ・履修教員での企業見学の実施によって、企業との連携が深まっている。 ・進路活動のスケジュールを早めることや、「県農アルバイトインターン制」を拡大することで、スムーズな就職と早期離職防止にさらに取り組んでいきたい。 ・学校全体で取り組んだというには、部室と学年との連携が十分ではなかった部分もあり、さらに情報共有で共通認識を持ち、連携を進める必要がある。 ・1・2年の時にLHRの時間等を活用しながら、どのように体系的に取り組むかが課題である。
5 人権・道徳教育	(1) 生徒の確かな人権意識の育成 (2) 人権・道徳教育推進体制の充実 (3) 情報モラルの育成	B	・学年が工夫して人権LHRを計画実施しているが、学校全体として3(4)年を見通した系統立てた指導計画を作成する必要がある。 ・本校ではトラブルの原因になっていることが多いので言葉遣い、情報モラルの育成を強化したい。
6 保健指導	(1) 適切な保健指導体制の確立 (2) 心と体の健康の両立	A	・職員会議や打ち合わせ等で生徒情報交換がよく機能しており、情報共有できている。 ・カウンセリングが必要な生徒に積極的に声をかけながら、カウンセリングの活用ができていく。 ・支援が必要な生徒について、担任・学年団中心に対応しがちになるが、学校全体で情報共有し、対応できるようにするとさらに良い。
7 危機管理体制の整備と防災教育	(1) 実効ある危機管理マニュアルの策定 (2) 教職員の実践的な研修・訓練 (3) 防災教育の推進	B	・研修・訓練は定期的に実施できているが、さらに内容の検討が必要。 ・避難訓練や講演会等はより実践的にしていたため、突発的な災害、自主防災の学びを推進していきたい。 ・生徒の心のケアについて具体的な内容の研修をしていきたい。 ・様々な危機に対応した危機管理マニュアルへ改善する。
8 教職員の資質向上	(1) 計画性を持った研修の実施 (2) 社会の変化に対応した教育観の育成	B	・外部での研修報告がきちんと実施できておらず、その必要性を感じている。 ・ICT機器の活用法の理解やスキルなど教員間で大きな差があり、協力して教えあうなど、スキルを向上させる必要がある。 ・新しい取組・システムについて教員同士が支え合うお互いの声かけの推進が必要。
9	(1) 3修制授業の内容の明確化と充実	A	・学びなおしという観点で非常に良い内容である。 ・一部ではあるものの、レベルが低いと感じる生徒もおり、内容だけでなく習熟度別などの授業方法についても改善する必要がある。 ・奉仕活動を工夫することにより、生徒が主体的・継続的に取り組めるようになる。
10 学校の特色化・個性化	(1) 県農定時制キャリア教育プログラム(個に応じた社会との接続を意識した系統的キャリア教育)の推進	A	・キャリア教育全体の流れを教員が把握できるようになった。 ・当該学年1年間を見通すことはできているが、3(4)年を見通すまでには至っていない。 ・早期離職を防止する取り組みを考え、進めていきたい。
11	(1) 県指定事業:高校生心のサポートシステム研究開発の推進	B	・年度当初に目標や内容を確認しているものの、職員間に十分浸透しておらず、組織的な取り組みになっていないと感じている職員がいる。 ・普通科・定時制で対応できる眼界を超えた支援を必要とする生徒が入学しており、これまでに以上に対応を考えていく必要がある。

6 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
・学校ホームページが刷新され見やすくなっている。刷新後も行事が終わるたびに掲載されており、タイムリーに更新できている。 ・学校ホームページの掲載について、さらに更新頻度を上げ、学校行事にこだわらず、些細なことでも学校の様子が伝わるようにしてもらいたい。 ・奉仕活動など、学校外でも様々な取り組みをしていることがわかった。さらに地域と連携できる内容を模索していきたい。 ・アフターコロナを見据え、保護者・地域との協働活動の再開、活発化を図ることを互いに考えていきたい。
・生徒が落ち着いて学校生活を送っている点から、教員が丁寧に生徒と関わっていることがわかり、評価できる。継続して取り組んでもらいたい。 ・交通安全やSNS利用上のモラルなどについては、生徒・保護者自身の評価が高いことと教員からの評価が低いことのギャップを埋める工夫を考えていく必要がある。実際には交通事故やSNS上でのトラブルが起こっているため、講演会や全校集会の注意のみならず、授業等を含めた学校生活全体で指導することが大切ではないか。 ・規律ある学校生活は、挨拶ができるなどの小さなことの積み重ねによって成り立っているものだと思う。生徒の意欲向上のための粘り強い取組を引き続き期待する。
・学び直しによる基礎基本の定着を図る指導について、生徒の満足度が高い。基礎学力の定着が、教科のみならず自身の成長を知ることができる1つの取り組みとなることを期待する。 ・基礎学力の定着指導や個に応じた学習指導はかならず根気が必要。何かの理由で「学ぶ」という行為に対してポジティブなイメージを持っていないところからのスタートが大半であれば、「できる」「わかる」という体験を多く持つような学習環境やしくみ作りが工夫が必要。 ・特別活動において、指示は守れるようになっているが、主体的な取り組みというには課題が残る。自主性や積極性を育てようというのは難しい課題であるが、人とのコミュニケーションの中で学び、人間的にも成長できるよう期待する。
・近年、より多様な生徒が入学しているということ卒業後の進路決定がますます難しくなっていることが想定される。問題が多岐にわたり、またデリケートな面を抱えているため、一様に指導できないという点により難しくしていると考えられる。学校内だけではなかなか解決されない課題ではあるが、ハローワークをはじめとした外部機関と連携し、情報を早くたくさんキャッチし、職員間で共有することで、生徒のよりよい進路選択ができるよう取り組みを続けてもらいたい。 ・個別に入学から卒業の3(4)年間で出来る事、出来ない事を予想し、それに即した指針を立てることが必要ではないか。目の前の課題をクリアしつつ、最終地点のイメージが生徒-学校-家庭と同じベクトルになることが望ましい。
・学校全体として3(4)年を見通した系統立てた指導計画を作成する必要があるのであれば、人権担当の部署を中心に各学年担当会で会議を持つなど、意思疎通をすることが重要である。 ・SNS上のトラブルが多いということであるので、適切な言葉遣い、情報モラルの育成を学校生活全体で指導することが大切ではないか。
・引き続き職員間で生徒情報の共有を進め、生徒と同じ立ち位置で対応できるようにしておくことが重要だと思う。適切なタイミングでの適切な言葉かけを大切に継続してほしい。 ・引き続き工夫いただき、危機管理への意識向上に努めていただければ幸いです。
・これまでの定審の訓練や指導とともに、多様な災害を意識した実践的な訓練や指導を導入し、災害を我がごととしてとらえ、より現実的な取り組みができるよう工夫してもらいたい。 ・課題を踏まえ、より実践的な取り組みとなることを期待する。
・これまでの問題点が解決されたことが伺えます。更なる状況改善へ向け努めていただければ幸いです。 ・働かながら学ぶ学生に合わせてより確かな対応ができるよう生徒の雇用先や卒業生との交流などを増やすのも良いのではないのでしょうか？ ・昨年度できていた外部での研修報告をきちんと実施し、タイムリーな課題に対応できるよう職員研修を継続してもらいたい。 ・次年度からは道徳指導を取り入れるということ、特別支援学校など外部機関との連携を深めてほしい。 ・新しい取り組みなどについて教員同士が支え合えるよう、お互いの声かけの推進を意識してほしい。
・学校の「大きな目玉」と言える取組があることは評価できると思います。一層の推進をお願いします。 ・コロナ対応が緩和されていく方向なので、奉仕活動を通じた地域でのボランティア活動の展開などの連携を深めることができると思う。 ・改善方針に着実に取り組まれることを期待する。
・職業人(あるいはそれに近い生徒)を対象とする定時制課程において、キャリア教育は重要と考えます。体制が確立しつつあることが伺えるため、更なる推進をお願いします。 ・学生生活の終着を就職とせず、その先にある人生や生活を意識した取り組みを期待する。 ・改善方針の実施に努力をお願いします。 ・難しい分野であるが、今後とも生徒のニーズを把握して課題を明確にし、それぞれの対策を実施する具体的な案を作成してもらいたい。 ・県予算による様々な事業を実施していることは、教職員の負担を伴うものの、教育の質の向上に寄与していると考えられることから、今後も積極的な実施を期待したい。